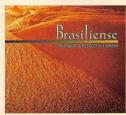
## 学び

## 濱瀬元彦

▼ an Faquini (イアン・ファキーニ) ▲の『Brasilense』(2014年) と Benji Kaplan (ベンジ・カプラン) の『Reveries Em Som』(2015年) という2つの作品 は多くの共通点がある。まず、いずれも ギターとフルートのデュエット編成であ ること。(蛇足だが、フルート奏者がとも に女性でかなりの美女であること。) Ian Faquini はブラジル生まれだが 8 歳のとき にカリフォルニア、バークレーに移り住 んでおり、Benji Kaplan はキューバ人の 血の混じったロシア系ユダヤ人でニュー ヨークに住んでいる。つまり、ともに中南 米の血を持ちアメリカ合衆国在住という 点。また2つのアルバムはいずれも全曲 それぞれの自作品で構成されていること。 最後に両者ともに Guinga の音楽に深く傾 倒していること。また、ともに合衆国内で 行われた講習会で Guinga の直接の指導を 受けていることも共通点だ。Ian Faquini は 15歳のときに Guinga と出会ってそれ 以来、彼を恩師と思い音楽の追求に目覚め たという。彼は Guinga の他に Ivan Lins や Chico Pinheiro という最良のブラジル 音楽のソースを吸収し、基本的にはジャ ズとフランス印象派的な音楽性を軸にし、 Guinga の良いところを取り入れるという 形をとっている。Guinga の音楽を自分の 音楽の多様性のひとつの素材 (つまりその 部分は模倣して)としている。この次の作

品、『Metal Na Madeira』(2016年)で明 らかになるが必ずしも Guinga の音楽の核 心を音楽創造の柱にしているわけではな い。まだ若い音楽家なので今後の変化に 期待したい。一方、Benji Kaplan は 2007 年に出している『Paixão No Violão』と いうアルバムでは Guinga の影響はほとん ど見えず、ギターはともかく歌ははっきり と言って下手であった。ところが2011年 の『Meditações No Violão』では明らか に Guinga の手法に切り替えて、ギターの 腕もめざましく上がっている。さらに、こ こで挙げている『Reveries Em Som』で は完全に Guinga の発想の仕方(モチーフ の展開のスタイル) が彼自身の音楽の動 力となっている。驚くべきことにあの感 心できなかった歌も 2016 年の『Uai Sô』 では文句なしの素晴らしさだ。2017年の 『Chorando Sete Cores』では完全に彼自 身の音楽を開花させた。Benji Kaplan 自身 の音楽創造の扉を Guinga の音楽性によっ て開いたというべきだ。これは彼自身の努 力によるものである。差異を消去しようと する欲望が模倣である。Benji Kaplanによ る Guinga のモチーフ展開の着想法の継承 はとうに模倣をはるかに越えており彼自 身の音楽になっている。Benji Kaplan にみ る Guinga からの学びの姿は音楽における 学びの称賛すべき一例といえるだろう。



lan Faquini 『Brasiliense』 (2014年)



Benji Kaplan 『Reveries Em Som』 (2015年)

濱瀬元彦(ジャズ・ベーシスト)=「濱瀬元彦 ELF.Ensemble+ 菊地成孔」で音楽の新しい形を追求 している。著作も多く、近著は『チャーリー・パーカー の技法 インプロヴィゼーションの構造分析』(岩波書 店)